

# Cisco Video Communication Server CE500 アプリケーション

インストールガイド

初版：2014年4月

最終更新日：2015年11月

X8.2以降

## はじめに

### このマニュアルについて

本書では、Cisco TelePresence Video Communication Server CE500 アプライアンスをビデオ ネットワークにインストールする方法について説明します。次の情報が掲載されています。

- 設置の準備。
- ハードウェアの設置。
- 初期設定の実行。
- インストールに関するトラブルシューティング。

Cisco VCS アプライアンスは UCS C220 M3L をベースとしています。このアプライアンスの設置に関する詳細については、[『Cisco UCS C220 Server Installation and Service Guide』](#)を参照してください。

### Cisco VCS アプライアンスについて

この製品のサポートは終了しています。詳細については、「[サポート終了のお知らせ](#)」を参照してください。

このアプライアンスには、Cisco VCS ソフトウェアがプリインストールされており、必要に応じてアップグレードできます。

このアプライアンスは Cisco VCS バージョン 8.2 以降をサポートしています。

項目	パート	数量
シャーシ	UCSC-C220-M3L	1
プロセッサ	UCS-CPU-E5-2643 (3.30 GHz/4 コア - ハイパー スレッド)	1
RAM	UCS-MR-1X082RY-A (8 GB)	2
ハード ディスク	UCS-HDD1T12F212 (1 TB NL SAS ディスク LFF)	2
オンボード SAS コントローラ	UCSC-RAID-ROM1 が提供する SAS サポート	1
NIC	N2XX-ABPCI01-M3 (Broadcom 5709 デュアル ポート 1 GB)	1
PSU	UCSC-PSU-650 W および電源コード	1
TPM	UCSX-TPM1-001 (トラステッド プラットフォーム モジュール)	1
その他 (Miscellaneous)	UCSC-BBLKD-L (HDD フィラー パネル)	3
	UCSC-HS-C220M3 (ヒート シンク)	1
	UCSC-RAIL1 (レール キット)	1
	UCSC-PCIF-01H (ハーフ高の PCIe フィラー)	1
	UCSC-PSU-BLKP (電源ブランク パネル/フィラー)	1

次のコンポーネントは現場での交換が可能です。

PSU のみが現場交換可能なコンポーネントです。

注：ハードディスクは取り外さないでください。

Return Material Authorization (RMA) を開始するには、

[http://www.cisco.com/web/ordering/cs\\_info/or3/o32/Return\\_a\\_Product/WebReturns/product\\_Online\\_web\\_returns.html](http://www.cisco.com/web/ordering/cs_info/or3/o32/Return_a_Product/WebReturns/product_Online_web_returns.html) を参照してください。

## 関連資料

- Cisco VCS ソフトウェアのメンテナンスおよび操作の方法については、「メンテナンスおよび操作ガイド」ページの『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。
- Cisco VCS のクラスタの作成およびメンテナンスの方法については、「コンフィギュレーションガイド」ページの『Cisco VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide』を参照してください。

## トレーニング (Training)

トレーニングはオンラインおよび当社のトレーニング場所で利用できます。シスコが提供するすべてのトレーニングの詳細およびトレーニング オフィスの場所については、[www.cisco.com/go/telepresencetraining](http://www.cisco.com/go/telepresencetraining) を参照してください。

## 用語集

TelePresence 用語の用語集は <https://tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/> で入手できます。

## 設置の準備

### 環境および電源仕様

アプライアンス サーバの環境および電源仕様を確認するには、

[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/hw/C220/install/spec.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/spec.html) を参照してください。

### ユニットの開梱と設置の準備

以下の詳細については、[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html) を参照してください。

- サーバの開梱と点検
- 設置に関するガイドライン。
- ラック要件。

- 機器の要件。
- スライド レールの調整範囲。

## シリアル番号の確認

Cisco VCS アプライアンスは 2 個のシリアル番号を表示します。

- UCS のシリアル番号：
  - 形式は FCHxxxxxxx です。
  - 物理ハードウェア、および CIMC Web インターフェイスに表示されます。
- アプリケーション/ソフトウェアのシリアル番号：
  - 形式は 52CNNNNN で、C は CECE500 シリーズ、N は数字です。
  - Cisco VCS の Web インターフェイスと引き出しタブの下面に表示され、SSH セッションで取得できます。
  - リリース キーとオプション キーを取得する場合に指定する必要があります。

## インストール

### ラックへのユニットの設置

ラックへのユニットの設置方法については、

[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html#wp1341126](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html#wp1341126) を参照してください。

### ユニットの接続および電源投入

最初に電源ケーブルをユニットに接続してから、接地されている AC 電源コンセントに接続します。

電源仕様については、[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/hw/C220/install/spec.html#wp1070378](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/spec.html#wp1070378) を参照してください。

電源ボタンは前面パネルの左上隅にあります。

CE500 アプライアンスを初めて電源に接続する際は、電源ボタンを押す前に、5 分間はスタンバイ モードのままにしておきます。この間に、オンボードの CIMC がブートし、セルフテストを準備し、ハードウェア チェックを実行し、電源の特性評価テストの準備ができるようになります。十分な時間を取らないと、次のブートまで電源特性評価テストが延期されます。

ユニットに電源を投入すると、システムがセルフテストを実行した後、ユニットが自動的に再起動します。再起動は予測される動作です。

初期電源特性評価テストのため、最初のブートには 5 分程度かかります。システムのそれ以降のブートにかかる時間は約 2 分です。

電源特性評価テストの実行時に「Performing Platform Characterization ...」というメッセージが表示されます。

以降のブートアップ時に電源特性評価テストを実行するとブート時に遅延が発生するため、これを無効にすることが重要です。この問題を回避するためにこのテストを無効にすることが、特にクラスタ化された環境では重要です。詳細については、「[トラブルシューティング](#)」の項の「[特定の問題](#)」を参照してください。

電源ステータスを確認するには、電源ステータス LED を確認します（[図 3 : Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの正面図 \(11 ページ\)](#) を参照してください）。

- 消灯：サーバには AC 電力が供給されていません。
- オレンジ：サーバはスタンバイ電源モードです。CIMC と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。
- 緑：サーバは主電源モードです。すべてのサーバ コンポーネントに電力が供給されています。

## 設定 (Configure)

ここでは、Cisco VCS に接続し、初期設定を行うさまざまな方法について説明します。

### Cisco VCS への接続

Cisco VCS を使用する前に、IPv4 および/または IPv6 アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイを設定する必要があります。どのアドレスを使用するかについては、ネットワーク管理者に相談してください。Cisco VCS には、スタティック IP アドレスを使用する必要があることに注意してください。

初期設定には、次のいずれかの方法を使用します。

- シリアル ケーブルを使用して Cisco VCS に PC を接続します（「[シリアル ポートを使用した接続 \(7 ページ\)](#)」、その後で「[Cisco VCS の設定 \(8 ページ\)](#)」を参照してください）。
- モニタおよびキーボードをユニットに直接接続します（「[KVM ポートを使用した接続 \(7 ページ\)](#)」、その後で「[Cisco VCS の設定 \(8 ページ\)](#)」を参照してください）。
- ネットワークの設定で許可されている場合は、デフォルト IP アドレス 192.168.0.100 に Web ブラウザを使用して接続します（「[Web インターフェイスの使用法 \(9 ページ\)](#)」を参照してください）。

図 1：ポートを示した背面パネル

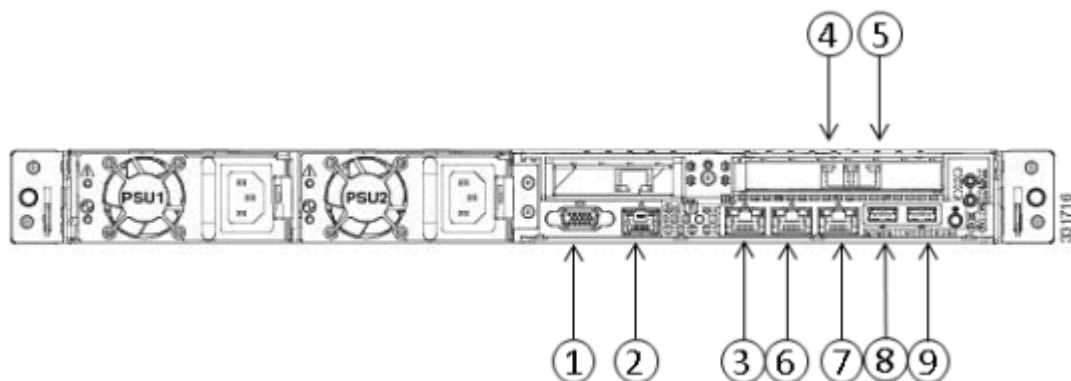


表 1：背面パネルのポート

1	VGA ポート
2	シリアル ポート
3	専用管理ポート（将来、CIMC 用に使用できます）
4	LAN 1（左 1 GB 銅製ポート）
5	LAN 2（右 1 GB 銅製ポート）
6	LAN 3（現在未使用）
7	LAN 4（現在未使用）
8	USB ポート
9	USB ポート

図 2：KVM コネクタを示した前面パネル

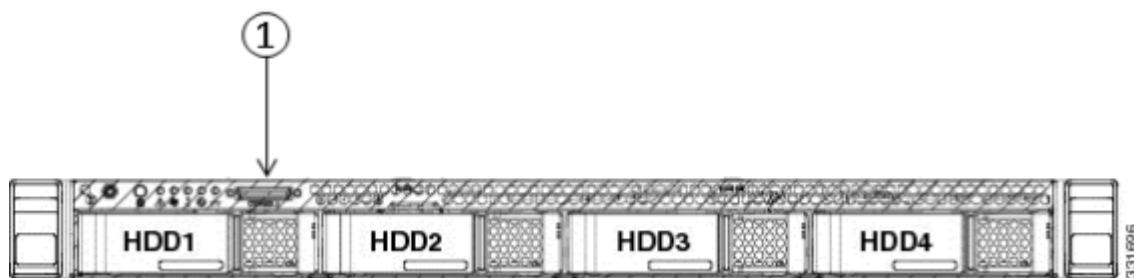


表 2：前面パネルのポート

1	KVM コネクタ
---	----------

## シリアルポートを使用した接続

1. ユニット背面の LAN 1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続します。

LAN 1 ポートはユニットの背面パネルのデュアルポートアダプタの左側のポートです（[図 1：ポートを示した背面パネル（6 ページ）](#)を参照してください）。

2. ユニット背面のシリアルポートから PC のシリアルポートにシリアルケーブルを接続します（[図 1：ポートを示した背面パネル（6 ページ）](#)を参照してください）。

シリアルケーブルにはクロスオーバーケーブルを使用する必要があります。シリアルケーブルのピン割り当ては次のとおりです。

オス RJ45 のピン	メス DB9 のピン
1	8
2	6
3 TXD	2
4 GND	5
5 GND	5
6 RXD	3
7	4
8	7

**注：**PC に DB9 ポートがない場合、DB9 から USB シリアルポートへのアダプタが必要です。

3. PC のターミナルエミュレータプログラム（たとえば PuTTY）を起動し、PC のシリアルポートを使用するように次のように設定します。
  - ボーレート：115200 ビット/秒
  - データビット：8
  - パリティ：なし
  - ストップビット：1
  - フロー制御（ハードウェアおよびソフトウェア）：なし

**注：**使用後は、ターミナルエミュレータセッションを開いたままにしないでください。セッションを開いていると、システムの再起動時に問題が発生する可能性があります。

## KVMポートを使用した接続

1. ユニット背面の LAN 1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続します。

LAN 1 ポートはデュアルポートアダプタの左側のポートです（[図 1：ポートを示した背面パネル（6 ページ）](#)を参照してください）。

2. 次のいずれかを行います。

- 前面パネルの KVM コネクタに KVM アダプタを使用して USB キーボードと VGA モニタを接続します (図 2: KVM コネクタを示した前面パネル (6 ページ) を参照してください)。
- 背面パネルの USB ポートに USB キーボードを接続し、VGA ポートに VGA モニタを接続します (「設定」 (5 ページ) を参照してください)。

これで、Cisco VCS の設定に進むことができます。

## Cisco VCS の設定

システムが起動した直後である場合、PC のターミナル エミュレータ プログラムは Cisco VCS のスタートアップ情報を表示します。約 4 分後に、ログイン プロンプトが表示されます。シリアル ケーブルを接続したときに Cisco VCS がすでにオンになっている場合は、**Enter** キーを押してログイン プロンプトを表示します。

1. ユーザ名に **admin** と入力し、**Enter** キーを押します。
2. デフォルト パスワードの **TANDBERG** を入力し、**Enter** キーを押します。  
インストール ウィザードのプロンプトが表示されます。
3. **y** を入力し、**Enter** キーを押します。
4. インストール ウィザードによって表示されるプロンプトに従い、次を指定します。

- **admin** アカウントに使用するパスワード。

**注:** セキュリティ上の理由から、パスワードをデフォルトの **TANDBERG** から変更することを推奨します。

- IPv4、IPv6、または両方を使用するかどうか。
- Cisco VCS の LAN 1 の IP アドレス。
- Cisco VCS の LAN 1 IPv4 サブネット マスク (IPv4 を選択した場合)。
- Cisco VCS のデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
- イーサネット速度。

**注:** デフォルト値の [自動 (Auto)] を使用します。

- Cisco VCS の管理に SSH を使用するかどうか。

5. ウィザードが終了した後に、次のメッセージが表示されます。

```
Setting other settings...OK.
```

```
The system must be restarted for new settings to take effect..
```

再起動のプロンプトが表示されます。

```
Restart Now?
```

**y** を入力し、**Enter** キーを押します。



- 再起動した後に、Cisco VCS は使用できるようになります。Cisco VCS の Web インターフェイスへは、LAN 1 イーサネット ポートに割り当てられた IP アドレスを使用してアクセスできます。

注：セキュリティ上の理由から、デフォルトの **admin** アカウントと、**root** アカウントのパスワードをデフォルトの TANDBERG から変更することを推奨します（まだの場合）。

## Web インターフェイスの使用方法

- ブラウザ ウィンドウを開き、アドレス行に次のいずれかを入力します。
  - Cisco VCS の IP アドレス。
  - Cisco VCS の FQDN。[ログイン (Login) ] ページが表示されます。
- [管理者ログイン (Administrator Login) ] を選択します。
- 有効な管理者ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン (Login) ] を選択します。  
[概要 (Overview) ] ページが表示されます。

Cisco VCS の Web インターフェイス上で使用可能な各設定オプションについては、オンライン ヘルプ、または『[Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide](#)』を参照してください。

## コマンドライン インターフェイス (CLI) の使用方法

コマンドライン インターフェイスは、デフォルトで、SSH とシリアル ポートを介して利用できます。

- SSH セッションを開始します。
- Cisco VCS の IP アドレスまたは FQDN を入力します。
- ユーザ名を **admin** とし、システム パスワードを使用してログインします。  
ウェルカム メッセージが表示されます。

Cisco VCS で使用できる CLI コマンドの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide](#)』を参照してください。

## admin アカウントのパスワードの変更

admin アカウントのパスワードを Web インターフェイスを使用して変更するには、次のように行います。

- [ユーザ (Users) ] > [管理者アカウント (Administrator accounts) ] に移動します。
- 管理者の名前の [表示/編集 (View/Edit) ] をクリックします。

3. [パスワード (Password) ] および [パスワードの確認 (Confirm password) ] フィールドに新しいパスワードを入力し、[保存 (Save) ] をクリックします。

[パスワードの強度 (Password strength) ] ボックスには、選択したパスワードの安全性が表示されます。

CLI を使用して admin アカウントのパスワードを変更するには、次のように行います。

`xConfiguration SystemUnit Password` と入力します。

**注：** admin ユーザや他の管理者アカウント、または root アカウントのパスワードは空白には設定できません。

## root アカウントのパスワードの変更

1. シリアル接続を使用し、既存のパスワードを使用して `root` としてログインします。
2. コマンド `passwd` を入力します。  
新しいパスワードの入力を求められます。
3. 新しいパスワードを入力し、プロンプトが表示されたらパスワードを再入力します。
4. `exit` と入力して root アカウントからログアウトします。

## その他のシステム設定の変更

次の設定も行う必要があります。

- Cisco VCS のシステム名。これは、システムを識別するために Cisco TelePresence Management Suite (Cisco TMS) で使用されます。これは、Web インターフェイスの [システム管理 (System administration) ] ページ ([システム (System) ] > [管理 (Administration) ]) から設定できます。
- 自動ディスカバリ。同じネットワーク内に複数の Cisco VCS がある場合、そのうちのいくつかで自動検出を無効にできます。これは、Web インターフェイスの [H.323] ページ ([設定 (Configuration) ] > [プロトコル (Protocols) ] > [H.323]) から設定できます。
- DNS サーバアドレス (URI ダイヤルまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用する場合)。これは、Web インターフェイスの [DNS] ページ ([システム (System) ] > [DNS]) から設定できます。

これらの設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプ、または『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。

## 更新とアップグレードの確認

Cisco VCS に最新のソフトウェアがインストールされているかどうかを確認するには、<http://software.cisco.com/download/navigator.html> にアクセスし、Cisco VCS に移動します。

アップグレードの方法については、『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。

注：X8.1.1 以前のソフトウェアにダウングレードしないでください。

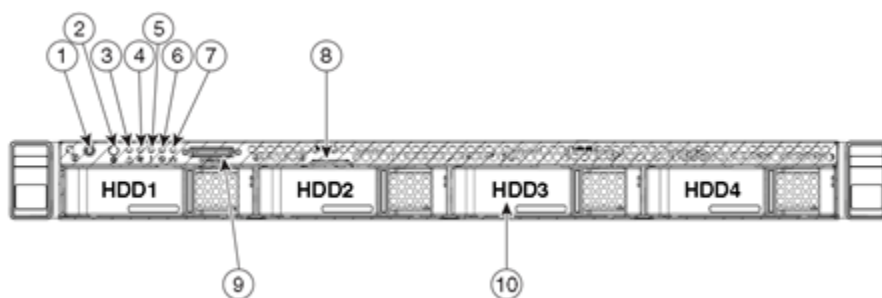
## トラブルシューティング

### LED とコンポーネントの位置

#### 正面図

次に、ユニットの正面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

図 3：Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの正面図

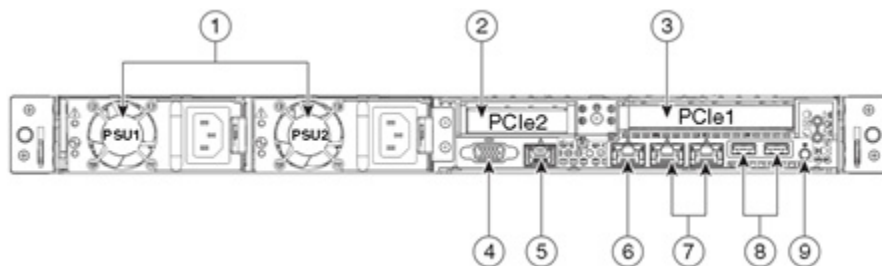


1	電源ボタン/電源ステータス LED
2	ID ボタン/LED
3	システム ステータス LED
4	ファン ステータス LED
5	温度ステータス LED
6	電源装置ステータス LED
7	ネットワーク リンク アクティビティ LED
8	資産タグ (シリアル番号)
9	KVM コネクタ (USB/VGA 接続の場合)
10	HD ドライブ アクティビティ/障害 LED

## 背面図

次に、ユニットの背面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

図 4 : Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの背面図



1	電源 (CE500 の場合は 1 個)
2	スロット 2 : 空き
3	スロット 1 : (LAN 1 および LAN 2) デュアル 1 GB ネットワーク アダプタに使用済み
4	VGA ビデオ コネクタ
5	シリアル ポート (RJ-45 コネクタ)
6	10/100/1000 イーサネット専用管理ポート (CIMC に使用済み)
7	デュアル 1 GB イーサネット ポート (現在使用されていません)
8	USB ポート
9	背面 ID ボタン/LED

## LED の状態の定義

LED の状態の定義については、

[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/c/hw/C220/install/replace.html#wp1167104](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/replace.html#wp1167104) を参照してください。

## マニュアルの変更履歴

日付 (Date)	説明
2015 年 11 月	X8.7 に関する内容を更新。サポート終了のお知らせへのリンク。
2014 年 12 月	X8.5 に関する内容を更新。
2014 年 6 月	X8.2 に関する内容を更新。
2014 年 4 月	初版。

## 通告

### テクニカル サポート

必要な情報をオンライン ヘルプから得られない場合は、<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html> の Web サイトを参照してください。このサイトでは、次のことが可能です。

- 最新のソフトウェアを実行していることを確認できます。
- シスコ テクニカル サポート チームから支援が得られます。

問題を報告する前に、次の情報を揃えるようにしてください。

- 製品の識別情報（必要に応じてモデル番号、ファームウェア バージョン、ソフトウェア バージョンなど）
- お客様の連絡先となる電子メール アドレスまたは電話番号。
- 問題の詳しい説明。

販売終了のためサポートされない可能性のある Cisco TelePresence 製品のリストを表示するには、[http://www.cisco.com/en/US/products/prod\\_end\\_of\\_life.html](http://www.cisco.com/en/US/products/prod_end_of_life.html) にアクセスし、「TelePresence」セクションまでスクロールダウンしてください。

### アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco TelePresence Video Communication Server の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は、以下で入手可能です。

[http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal\\_regulatory/vpats.html#telepresence](http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence)

アクセシビリティの詳細については、次を参照してください。

[www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html](http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html)

## シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

**FCC クラス A 準拠装置に関する記述：**この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

**FCC クラス B 準拠装置に関する記述：**この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved.

Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

## シスコの商標または登録商標

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. シスコの商標の一覧は [www.cisco.com/web/JP/trademark\\_statement.html](http://www.cisco.com/web/JP/trademark_statement.html) に掲載されています。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)